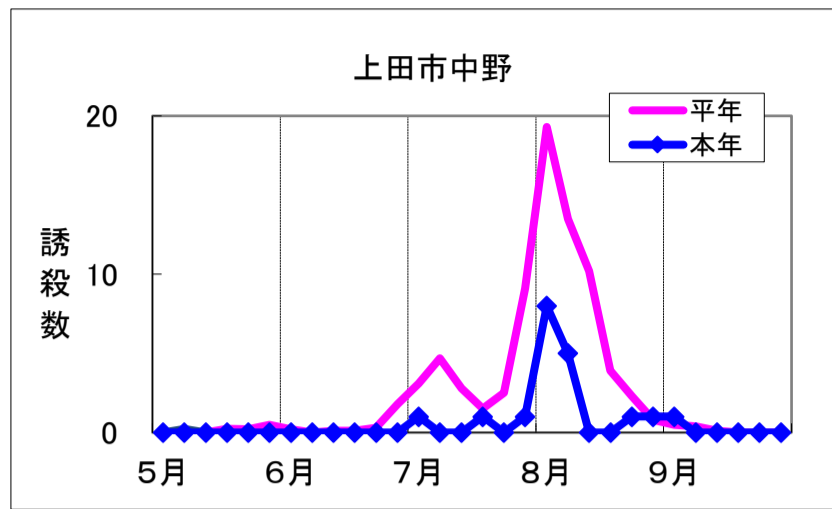
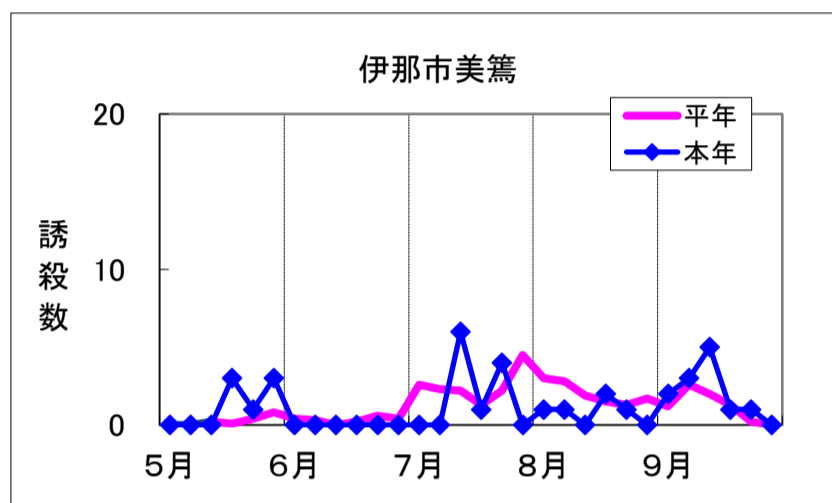


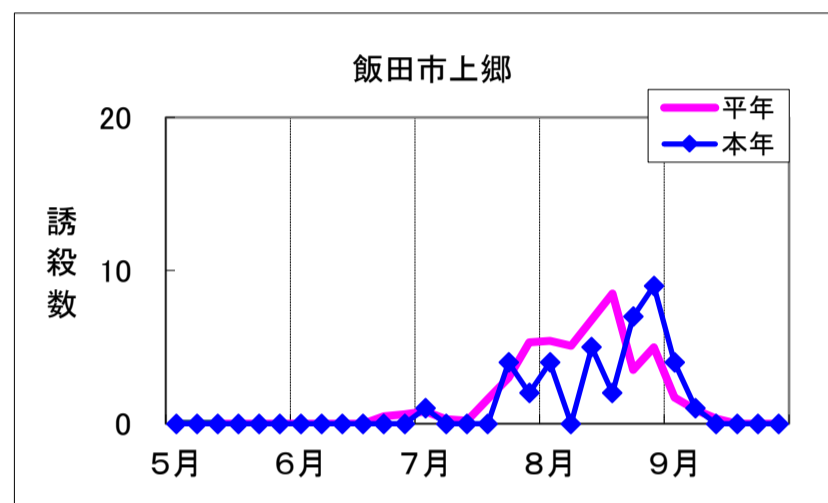
予察灯によるフタオビコヤガ(イネアオムシ成虫)の誘殺消長 【令和元年・(2019年)】



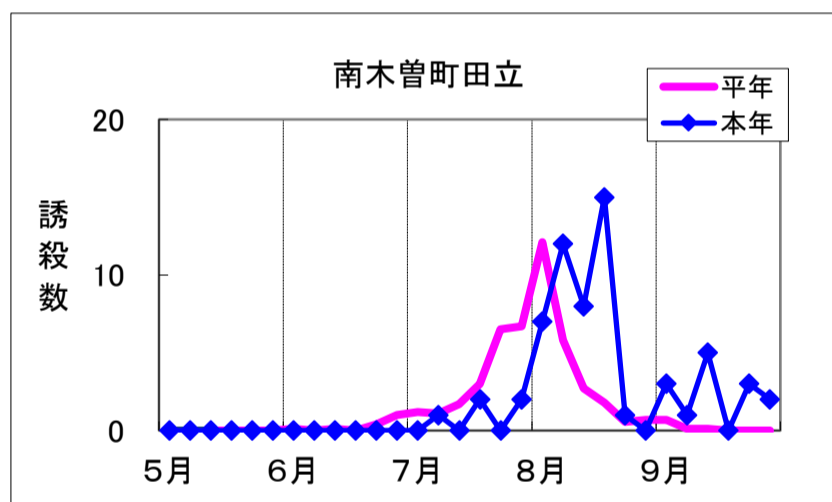
※平年:平成21~30年の10ヶ年の平均



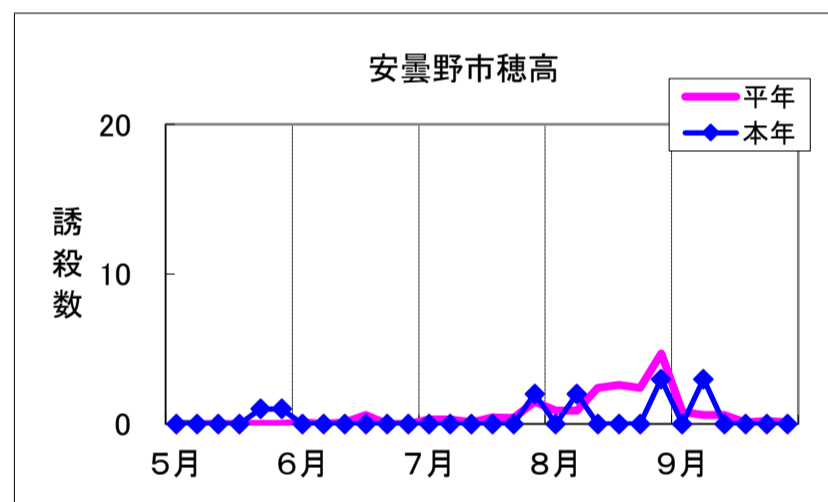
※平年:平成21~30年の10ヶ年の平均



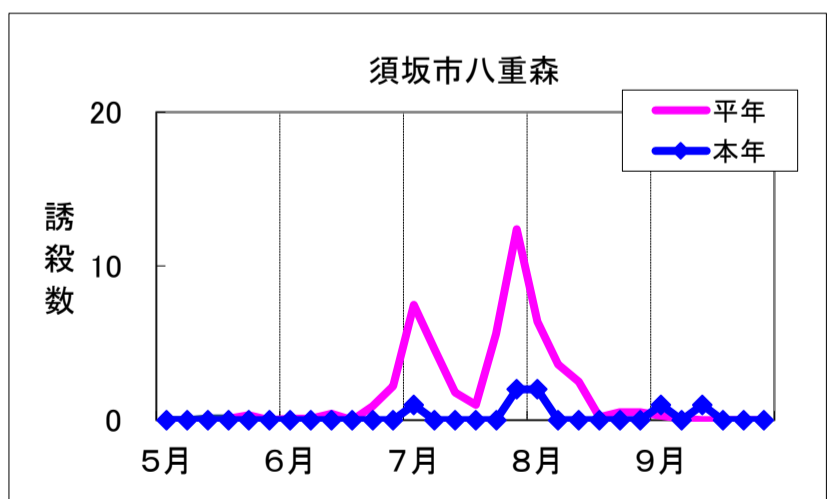
※平年:平成24~30年の7年間の平均



※平年:平成21~30年の10ヶ年の平均



※平年:平成21~30年の10ヶ年の平均



※平年:平成21~30年の10ヶ年の平均

(参考)

1 発生生態

本県におけるフタオビコヤガ(イネアオムシ)の発生は、年3回が一般的です。標高の高い地域や、低温の年に発生が多くなります。蛹で越冬し、5月下旬に第1回成虫(越冬世代)が発生します。第1世代幼虫は6月中下旬に発生し、イネの葉を葉縁から台形に食害します。

上のグラフは予察灯で捕獲された成虫数です。

2 防除時期

(1) 平年の第1世代幼虫の防除は6月中下旬頃、第2世代幼虫の防除は7月中旬頃、第3世代(越冬世代)幼虫の防除は8月上旬頃です。